

## 答辞

肌寒い風が吹きつつも、暖かい日差しに春の訪れを感じるこの佳き日、このように心のこもった卒業式を挙行していただき、誠にありがとうございました。また、ご多用の中、ご臨席いただいたPTA会長様、校長先生をはじめ諸先生方、保護者の皆様に卒業生一同を代表し、感謝申し上げます。私たち高等部三年生二十五名は、希望に胸を膨らませ、今日、渡良瀬特別支援学校を卒業します。今、学校生活を振り返ると、色々な日々が思い出されます。

一年生の四月、この場所で、期待と不安が入り混じった気持ちで入学式をむかえました。周りを見れば知らない人ばかりで、新しい生活になじめるのかと心配でしたが、同じクラスや同じ作業班になったことをきっかけに、お互いのことが少しずつ分かり、友達になることができました。

一年生では、入学したばかりで、学校生活のことがよく分かりませんでした。二年生や三年生の先輩方が親しく声をかけてくださったり、作業学習や和太鼓練習などの場面で手本を見せてくださったりしたおかげで、だんだんと慣れることができました。

一年生の時に一番印象に残っていることは校内工場です。初めての就業体験で、一日通しての立ち仕事だったため、足がとても疲れ、働くことの大変さを強く感じました。しかし、皆で励まし合いながらやり通すことの楽しさや、休まずに続けることで得られる達成感を味わうことができました。

二年生では、新型コロナウイルス感染症対策のため、分散登校や就業体験の中止など、一学期は不安なスタートとなりました。久しぶりに会う友達の顔を見て、とてもほっとしたことを覚えています。

二学期からは通常の学校生活が送れるようになり、初めての校外での就業体験に取り組みました。卒業したら働ける人になることを目指して、皆、懸命に取り組みました。毎日体調良く出勤するために生活リズムを整えること、職場の方との報告・連絡・相談など、大切なことをたくさん学ばせていただきました。

二年生で残念だったのは、宿泊学習や大阪への修学旅行、特体連高等部体育大会が中止となったことです。しかしその代わりとして水上方面への日帰り修学旅行、校内での高等部体育大会が行われ、クラスや学年の「絆」や「団結力」が深まりました。

三年生では、最上級生として、様々な場面で高等部を引っ張っていく存在となりました。特に、三年間頑張りとおした和太鼓演奏では、私は大太鼓を担当しました。腕が痛くなることも、手にまめができることも度々ありましたが、半田先生をはじめ、先生方からリズムや身体の使い方まで一つ一つていねいにご指導いただいたおかげで、六曲全てを覚え、自信をもって叩けるようになりました。皆の気持ちの一つになり、リズムや音がそろった時の喜びを、私はこれからも忘れることはありません。

また、三年生では、念願の宿泊学習がありました。いつもとちがう環境の中で、木工クラフトや藍染め体験、レクリエーションなどを行い、楽しい時間を過ごすことができました。事前の準備も含めて、仲間と一緒に全力で楽しみ、成長できた二日間でした。これまで一緒に悩み、励まし合い、支え合ってきた仲間との思い出は、かけがえのない宝物です。

在校生のみなさん、先程は素晴らしい送辞をありがとうございました。四月になると、一年生は高等部の中心となり、二年生は最高学年として、高等部全体を引っ張っていく存在となります。高等部での三年間は、長いようであつという間に過ぎていきます。自分の目標を見つけ、それに向かって努力し続けることが、必ず良い成果につながります。

渡良瀬特別支援学校は、一人一人が確実に成長できる学校です。礼儀や挨拶、感謝の気持ちや思いやりなど、人として大切なことを学び、社会に羽ばたいていくための力をたくさん身につけていってください。

保護者の皆様、これまでご心配ばかりかけてきましたが、いつも私たちのことを一番に考え、支えてくださったおかげで、ここまで成長することができました。これからも、助けていただくことがたくさんあるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

明日から私たち二十五名は、それぞれ新しい道に向かって第一歩を踏み出します。社会に出て、想像以上に厳しい現実が待っているかもしれませんが、この三年間で学んだことを支えに、自分にできる最大限の努力をしながら、これからの人生を一步一步進んでいきたいと思えます。

最後になりましたが、今までお世話になりました校長先生をはじめ教職員の皆様、地域の方々や保護者の皆様、在校生のみなさんに感謝するとともに、渡良瀬特別支援学校の更なる発展をお祈り申し上げます。

三年間、本当にありがとうございました。

令和四年 三月一日

卒業生代表